



切り絵『午』 比企善彦 作



茨木神社社報

発行所

茨木神社社務所  
茨木市元町4-3  
072(622)2346  
[https://www.  
ibarakijinja.or.jp/](https://www.ibarakijinja.or.jp/)

## 「いのちと、いのちの、あいだに」

このタイトルは、昨年開催された大阪・関西万博における日本館の主題です。このテーマには私達は、他者と自分、人と自然など、様々ないのちといのちの「あいだ」に生きている存在であることを見つめ直すという意図が込められています。

伊勢の神宮式年遷宮は、昨年五月の山口祭・木本祭に続き、六月三日には御神体をお納めする御樋代（みひしろ）の御用材である「御樋代木」を杣夫が斧で切り出す「御杣始祭（みそまはじめさい）」が斎行されました。その際、伐り出されたヒノキの切株に杣夫がその木の梢を差し立てる「鳥総立（とぶさたて）」が行われます。これは木の本来をお戻しし、幹を頂戴して使わせていただくことへの感謝を山の神に伝えるものです（二頁写真参照）。

この儀式はまさしく、切株という「いのち」と、梢という「いのち」の、「あいだ」である幹を使わせていただいている感謝を示すものです。私達も、他者と自分、人と自然、祖先と子孫など、様々な「いのちと、いのちの、あいだに」生かしていただいています。関西万博日本館の主題や神宮式年遷宮の神事を通じて、改めてその恩恵に感謝する機会としたものです。

## 大阪・関西万博と神社 「木の文化」の日本へ

四月十三日より十月十三日まで  
の百八十四日間、大阪夢洲を舞台  
に大阪・関西万博が開催されまし  
た。

二千五百万人を越える来場者を  
記録するなど盛況であった中、特  
に話題を集めたのが、万博会場を  
囲む2キロメートルの「大屋根リ  
ング」でした。世界最大の木造建  
築物としてギネス記録に認定され  
た巨大建築であり、柱と梁の接合  
には、日本の伝統的な構法「貫接  
合」が採用されるなど、万博のシ  
ンボルともいえる建物でした。



大阪・関西万博「大屋根リング」

「大屋根リング」にも象徴され  
るように、日本は「木の文化」を  
持つ国です。木は視覚的にも優し  
さを感じることができ、触覚的に  
も温かさを与えてくれます。この  
大屋根リングの柱の木もまるで部  
屋の区切りのような役割を果たし、  
多くの人が柱の周りで休憩されて  
いました。



「大屋根リング」で用いられた貫接合

また、本万博を代表するパビリ  
オンの一つである日本館では、木  
造が持つ持続可能性をテーマとし  
た展示の中に、伊勢の神宮式年遷  
宮の展示もありました。二十年に  
一度全ての社殿を新しく建て替え  
る式年遷宮は、山の神々に木の伐  
採を乞い願う山口祭から、伐採後  
の木に対して「本(もと)と末(す

え)に対して行う祭である「鳥総  
立(とぶさたて)」、そして種取り  
をした上で後世の遷宮へ向けての  
植樹。日本が千三百年前から続け  
てきた「いのちの循環」そのものが  
式年遷宮であるという内容でした。



鳥総立(とぶさたて)

この万博を通じて、日本人をは  
じめ世界の人々が日本が誇る木造  
建築の魅力を感じ、その伝統を後  
世に受け継いでいく大切さを再認  
識する機会となったのではないで  
しょうか。



日本館

## 奉賛会バスツアー報告

十一月十九日、恒例の奉賛会バ  
スツアーが開催されました。これ  
は毎年十一月、近畿近郊の神社を  
正式参拝すると共に、その近くの  
名所を観光するもので、毎回多く  
の奉賛会員様にご参加いただいて  
おります。

今年は、朝は冷えましたが日中  
は穏やかな秋晴れの下、五十二名  
の参加者が三台のバスで岐阜県に  
向かいました。

まず不破郡垂井町に鎮座する美  
濃国一之宮である南宮大社に正式  
参拝しました。そして禰宜の荒井  
様にご由緒や社殿建築等について  
ご解説いただきました。



南宮大社でのご解説の様子



その後、関ヶ原町にて昼食をと  
り、岐阜関ヶ原古戦場記念館を見  
学しました。まず巨大な床面スク  
リーンで全国を舞台とした東西陣  
営の戦いを俯瞰し、次にシアター  
にて、あたかも合戦当日の関ヶ原  
に紛れ込んだかのようなリアルな  
映像を楽しみました。



岐阜関ヶ原古戦場記念館

### \*南宮大社について

#### 【御祭神】

金山彦大神

(かなやまひこのおおかみ)

#### 【配祀】

彦火火出見尊

(ひこほでみのみこと)

見野命

(みののみこと)

南宮大社は古く神話の時代、伊  
耶那美命(いざなみのみこと)が  
火之迦具土神(ひのかぐつちのか  
み)をお生みになられた際にお生  
まれになられた鉄鉾・鉾山・製鉾  
を司る金山彦大神を主祭神として  
お祀りしています。お生まれにな  
られた姿が、流鉄に似ていたこと  
から鉄鉾・鉾山にまつわる神とし  
て人々の崇敬を集めるようになって  
たといわれており、現在でも南宮  
大社は金属製鉾の総本宮として全  
国の金属業・鉄鉾業・鍛冶の方々  
から厚い信仰を集めています。

社伝によると、金山彦大神は初  
代神武天皇東征の際、八咫鳥(や  
たがらす)を輔(たす)けて大いに  
お力を顕わし不破郡(ふわぐん)  
府中(ふちゅう)の地にお祀りさ  
れることとなりました。後に第十  
代崇神天皇の御代に現在の地に鎮  
座なされます。古くは「仲山金山  
彦神社」と称されましたが、国府  
から南方に位置するため南宮大社  
と云われる様になったと伝えられ  
ています。

現在の建物は、慶長五(一六〇〇)  
年の関ヶ原合戦の兵火によって焼  
失したものを、寛永十九(一六四二)  
年、春日局の願いにより三代将軍

徳川家光公が再建したものです。  
以後も歴代將軍の崇敬篤く、現在  
も地元のみならず遠方からも多く  
の参拝者が訪れます。



南宮大社

### ■金山彦大神と茨木神社

南宮大社のご祭神「金山彦大神」  
は、茨木神社の末社「事平(ことひ  
ら)神社」にも「金山彦命(かなや  
まひこのみこと)」としてお祀り  
されております。かつては旧主原  
村の金御嶽神社(現御旅所)に祀  
られておりましたが、明治四十  
一年金御嶽神社を廃し当神社の事平  
神社に合祀されました。

私たちの地域でも古代における  
鉾物製鉾との関係を伺うことがで  
きます。

### 黒井の清水大茶会

十月四日、黒井の清水大茶会  
(主催：茨木市観光協会)が神社  
境内にて開催されました。午前九  
時から本殿にて奉茶式が斎行され、  
お抹茶とお菓子が御神前に供えら  
れました。

当日は雨天のため、儀式殿一階  
和室を会場に実施され、多くの  
方々が野点を楽しんでおられまし  
た。

境内には茨木の物産販売やお楽  
しみ抽選会が行われ、また境内休  
憩所に設けられた舞台では茨木神  
社雅楽会による雅楽の演奏が行わ  
れるなど、多くの来場者の耳を楽  
しませました。



末社 事平神社

## 抜穂祭

毎年神社の境内では、伊勢の神宮でのみ栽培され、「イセヒカリ」と名付けられた稲を、少しですがお頒ちいただき苗から育てています。今年も夏の暑さと度重なる風雨にも耐え順調に生育して、実りの秋を迎えました。神様の御恵み・お蔭でできた米なので「御蔭米」と名付けて、恒例の抜穂祭を十月二十六日に斎行し、十一月二十三日の新嘗祭に御神前にお供えいたしました。



黒井の清水大茶会

## 御朱印について

●令和八年新年御朱印を頒布いたします。新年にふさわしく、美しい花々に囲まれながら未来を見据える午を中心に制作しました。初詣にご参拝の際にぜひお受け下さい。



抜穂祭

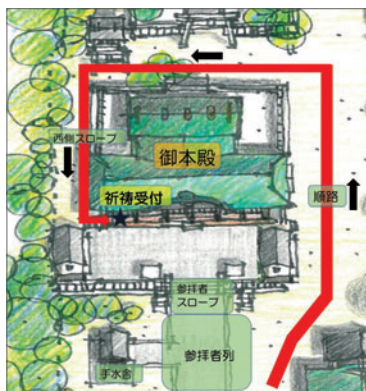


(初穂料は五百円です。数に限りがございますので、準備枚数が無くなり次第終了とさせていただきます。)

## 今後の神事について

### ◇初詣

例年、正月三ヶ日は多くの参拝の方々で賑わいます。そして皆様には何かとご不便をお掛けしますが、案内掲示や係員の指示にご協力いただきますようお願いいたします。なお、厄除などの諸祈禱にお越しの方は、正面参道のご参拝列にお並びになることなく、左図の通り、直接本殿裏より西側スロープを上がり、本殿西側の祈禱受付にお越し下さい。



### ◇十日戎

今年も例年通り一月九日～十一日の三日間斎行されます。

この間、福笹・吉兆の授与、十日には宝恵籠巡行が行われます。

### ◇御火焚(とんど)

一月十五日の午前中に斎行い

たします。正月飾りは当日正午までにお持ちいただきますようお願いいたします。

## これからの行事予定

### ◆越年祭

十二月三十一日

### ◆歳旦祭

一月一日午前十時斎行

### ◆十日戎祭

一月九日～十一日

### ◆御火焚(とんど)

祈禱木奉焼祭

一月十五日

### ◆初午祭

二月一日

### ◆節分祭・鎮魂星祭

二月三日

### ◆紀元祭

二月十一日

### ◆人形奉焼祭

四月八日

### ◆春祭(祈年祭)

奉賛会厄除安全祈願祭

四月十八日

### ◆大祓・茅の輪くぐり神事

六月三十日